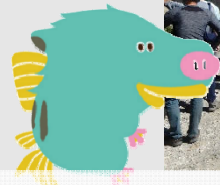


市民部会

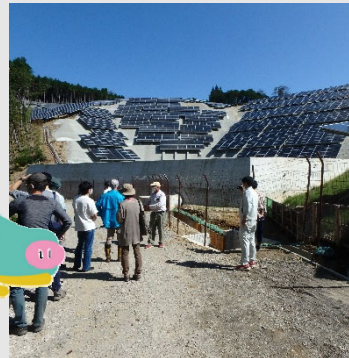
「マイクロプラスチック」、
「ネオニコチノイド系農薬」に関する公開講座を開催



山部会

資料4

根羽村、豊田市、
恵那市、岡崎市で
フィールドワークを実施



矢作川流域圏懇談会 第11回 全体会議

山部会 抜粋



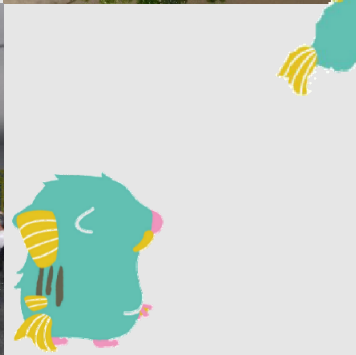
海部会

西尾市東幡豆海岸にて、
現地の生き物やゴミの状況を視察



川部会

鵜の首地区の掘削場所や時瀬地区の置土箇所を見学



国土交通省 中部地方整備局
豊橋河川事務所
山・川・海 流域一体で川づくり
矢作川流域圏懇談会

山部会の活動進捗報告

《令和3年度の当初目標》

「山部会の出発点の共有」を見直すとともに、これまでの4つのテーマについて、引き続き、情報共有と意見交換を行う。また、4つのテーマの中で、融合できる内容を精査し、必要に応じてテーマに絞り込んだ特別WGの開催を視野に議論を重ねる。

<テーマ>

①流域圏担い手づくり事例集

<解決手法>

- ・持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集Ⅲ」を刊行する。
- ・特に山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目して取材を行う。
- ・川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。
- ・事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。

山部会の活動進捗報告

<テーマ>

②山村ミーティング

<解決手法>

- ・ガイドラインの作成においては、林業技術者に直接意見を伺うなど、**懇談会との連携を強化**する（担い手の創出）。
- ・矢作川感謝祭への森林組合員の参加が定着してきたため、このイベントをどのように活用するか、さらに検討を行っていく。

③森づくりガイドライン

- ・矢作川流域の森を守っているプロたちが、その仕事の意味や重要性を理解し、誇りをもって作業を行うための指針となり、同時に、矢作川流域の恵みで生きる河川管理者、沿岸漁業者、流域住民が、流域の森を守っているプロたちの作業の公益的な重要性を理解し、彼らをリスペクトし、応援するための指針となることを目的とした**「森づくりガイドライン」づくりに取り組む**。（②山村ミーティングとの協働を想定する）。
- ・**森林経営管理法、森林環境譲与税**などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、**流域圏全体として調和のとれた森づくり**を目指す。
- ・水循環基本法に定められた森林の雨水浸透能力又は水源涵養能力の整備について、**矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップ**する。

山部会の活動進捗報告

<テーマ>

④木づかいガイドライン

<解決手法>

- ・矢作川流域内の各関係者が取り組まれている、木づかい活動や推進テーマを「さあ～しよう」の形で提案していただくことにより情報を共有化し、流域内の身近な木を利用した、木づかいが推進されるように「**木づかいガイドライン**」を作成する。
- ・矢作川の流れを絆として、個人の思い入れを込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「**矢作川流域ものさし・私の流域物語**」を有志で製作し、これを全国の各流域に配布することによって**全国の各流域においてその理念と製作方法を普及**する。
- ・「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった、全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある**矢作川流域圏懇談会の取り組みについて全国の流域関係者に向けて発信**する。
- ・「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所での「木づかいライブスギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施や、個人の思い入れを尊重した木づかいによる**市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施**する。
- ・こうした取り組みを通して矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させ「木づかいによる場所の力づくり＝プレイスメイキング」によって**身近な生活空間を魅力的な地域空間に変革**していく。
- ・こうしたプレイスメイキングに際し、**地域住民や地域の子どもたちが一緒になって活動することにより、特に子どもたちに対して、地域資源と共に生きていく様々な原体験の場を提供**していく。

山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動スケジュール

今年度の活動としてWG3回、フィールドワーク4回、まとめの会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第59回WG（20名）	6月25日（金） 13：30～17：05	（根羽村） ・根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」
フィールドワーク①（12名）	6月26日（土） 9：30～12：00	（根羽村） ・コウオウザン植栽箇所 ・根羽村森の交流館 ・村有林皆伐地 ・ネバーランドフォレストガーデン
第60回WG（32名）	10月1日（金） 13：30～17：00	（恵那市） ・恵那市消防防災センター 3階 研修室
フィールドワーク②（15名）	10月2日（土） 9：30～12：00	（恵那市） ・恵那市飯地町の太陽光発電施設（5箇所）
第61回WG（23名）	11月5日（金） 13：30～17：05	（豊田市） ・豊田森林組合庁舎 第2・3会議室
フィールドワーク③（16名）	11月6日（土） 9：30～12：00	（豊田市） ・鼎館 ・ゴンゾレトレイル
第13回山部会 まとめの会（25名）	1月22日（金） 13：30～16：30	（岡崎市） ・岡崎市額田センター「こもればいかん」（集会室A・B）
フィールドワーク④（13名）	1月22日（土） 9：30～12：00	（岡崎市） ・農林中金の補助金による整備地区「めかた木望の森」

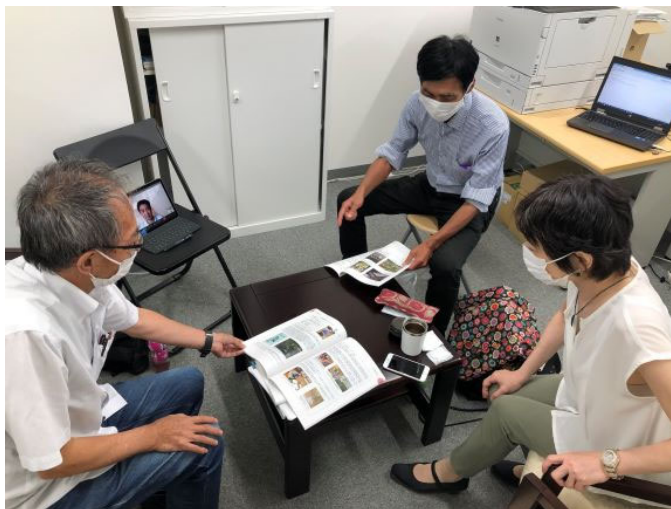
※参加人数はオンライン参加者、事務局含む

山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

①流域圏担い手づくり事例集 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<流域圏担い手づくり事例集の作成>

- 山・川・海の有志からなる部会連携調整（通称：ミライ会議）を設け、その中で事例集の作成についても検討を行った。
- 前年度の10年誌作成過程で、流域の課題を解決するためには、もっと都市住民を巻き込むことが必要という認識が共有された。その先進事例を対象に、これまでと取材の形式を変え、取材対象のプロジェクトに関わる複数のメンバーに取材し、プロジェクトの全体像を立体的に浮かび上がらせることをめざした。
- 今年度は、名古屋の学童保育木質化プロジェクトを取材対象とし、部会連携調整（ミライ会議）時に「森と子ども未来会議」発起人の鈴木建一氏を招聘。その後、「あおぞら学童保育クラブ」、「松栄第一第二学童保育クラブ」「山里学童保育クラブ」（以上名古屋市）、「季の野の台所（知多郡美浜町）」を訪問。鈴木建一氏、学童保育の設計を行った「東海林建築設計事務所」の東海林修氏、「季の野の台所」の森川美保氏らに取材を行った。



部会連携調整（ミライ会議）における取材計画検討状況（左）と事例集の取材風景（右）

山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

① 流域圏担い手づくり事例集 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<川部会・海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動>

- 「第13回“いい川”・“いい川づくり”ワークショップ in 中部」において、洲崎氏より懇談会の活動概要、流域圏担い手づくり事例集の作成状況、設立10年の成果と課題について、全国に向けて発信した。

各部会の課題	
<p>山部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と山村の課題 … 山村における若者の就業機会の少なさ、定着率の低さ、過疎化、高齢化の進行。 ・森林の課題 … 管理不足で過密化した水消費型森林や放置人工林からの土砂流出・崩壊の危険性の増加。 <p>川部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の棲みやすい川づくり（上下流問題）。多様な物理環境と生物生息環境の創出。特に土砂供給不足の問題。 ・地域の人びとと川との関係を中心とした、地先の課題（河川空間の利用・保全のあり方）。 <p>海部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の生き物をとりまく課題 … ごみ・流木の問題、豊かな海の生物調査、豊かな海の再生。特に海水の栄養塩不足の問題。 ・海と人の課題 … 海と人の絆再生、干潟・ヨシ原再生。 	<p>矢作川流域圏懇談会 10年間の活動</p> <p>2010～19年の10年間に230回の活動・会議を開催し、のべ5,600人が参加！</p>  <p>流域圏担い手づくり事例集</p> <p>中山間地振興や川や海の実環境保全に関わる活動を行う102団体に取材を行い、計6冊の「山村再生担い手づくり事例集」と「流域圏担い手づくり事例集」を発行。</p>
<p>矢作川流域圏懇談会 次の10年間の課題</p>	
 <p>矢作川流域圏懇談会10年誌（表紙）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年に懇談会が設立10周年を迎えるのを機に、10年誌を作成。 ・成果だけでなく組織の再構築など運営する中で苦労した過程、会を支えたキーパーソンの声、事例集を振り返った座談会など、懇談会のリアルな軌跡を辿れる内容にした。 <p>10年間で懇談会の活動は一定の成果を上げてきた。しかし、懇談会の継承につながる次世代のメンバーの参入がない。</p> <p>今後、活動を若い世代につなげていくにはどうすればいいだろうか？</p>	

山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

②山村ミーティング | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<矢作川水源の山づくりガイドブックの策定>

- 森づくりガイドラインと協働で「矢作川水源の山づくりガイドブック策定会議（通称：矢作川流域山づくりWS）」を岡崎と豊田で行い、林業の第一線で働く作業員の技術の伝承手法や労働環境の課題等について状況共有と意見交換を行った。過去に山村ミーティングで実施した林業担い手100ヒヤリングと並ぶ充実した会議となった。

現場力が机上の空論を喝破する
科学が日々の山仕事の不条理を解明する

力を合わせ現場を科学し「矢作川流域 山づくりガイドブック」をつくらう！

百戦錬磨の現場力と新進気鋭の科学で
これまで無意識に続けてきた森林作業や
どう見ても不合理的な指示や規則、
一見科学的でも違和感のある知見、
それらを今一度冷静に棚卸して
本当に筋に落ちる山づくりの手引きをつくらう！
持続可能な山仕事でこそ流域は持続可能になる。
心ある山づくりのプロたちよ、未来のために集まれ！



第1回矢作川流域山づくりWS
日時：令和3年7月26日(月)9~16時
場所：岡崎森林組合(座学と現場)

パンデミックや異常気象の中、山村部ではウッドショックや無秩序な不動産投機が懸念されています。2000年の東海(忠南)豪雨以来全国では豪雨災害が頻発していますが、矢作川ははっきり空白地域でいつ災害が発生しても不思議ではないと言われています。本物の山づくりが益々求められています。

山仕事のプロである皆さまが、日々の山仕事で感じる疑問や不条理が、根拠となるべき科学的知見や制度が曖昧なまま、見過ごされています。それらの関係や課題を研究者と一緒に明らかにして、課題解決のために必要な技術と知見や制度を山づくりガイドブックにまとめたいと思います。技術を身につけ知見を学び制度を覚えていくことから誇り高い山仕事と持続可能な山づくりができる仕組みを実現できたらと願っています。

- 7月26日(月) 9~16時：岡崎森林組合
- *6月14日に予定されていた第1回は緊急事態宣言延長により今回に延期しました。
- 内容 ①会議の趣旨と経緯説明(「矢作川流域林業担い手100人ヒヤリング」結果より)
- ②南九州の山で起きていることとこれからの矢作川の施策(東京大学：蔵治光一郎教授)
- 矢作川森の研究者グループの紹介
- ③地域の状況と作業上の課題(岡崎森林組合現場技術者から)
- ④(昼食)現地踏査(現場の自機と葛藤披露)
- ⑤フリートーク
- ⑥次回以降の進め方(課題、順番ほか)
- *参加費無料：山林現場に入る格好でおいでください。
- *コロナで愛知、岐阜、長野いずれかで緊急事態宣言発出期間内になった場合は延期します。
- *当日37.5度以上の発熱のある場合は参加をお控えください。

会議の開催案内(チラシ)



会議・現地視察の様子(上段：岡崎市、下段：豊田市)

<矢作川感謝祭における流域の森林組合員の交流>

- 今年度は、流域の森林組合の参加が定着しつつあったこのイベントをどのように活用するかの検討を行う予定であったが、新型コロナウイルスの感染の収束が望めないことから、イベント自体が中止となった。

山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

③ 森づくりガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<流域圏全体として調和のとれた森づくり>

- 流域市村において、森林環境譲与税の使い道に関する取り組みを、行政や森林組合の担当者より報告いただき、意見交換を行った。
- 根羽村では、根羽村森林組合を主体に伐採・製材加工・販売を通して、林業の一次、二次、三次産業による6次産業化を確立している。これを「根羽村トータル林業・まもる・つかう・つなぐ」と称して、林業のあるべき姿を追求していることを報告した。
- 豊田市の森林施策については、同市森林課の小川氏より「豊田市の森づくりの成果と課題について」をテーマに話題提供をいただいた。森林組合と連携し、団地化推進プロジェクトによる間伐の推進、森林整備に関する人材育成や普及啓発、木材利用を進めていることを報告した。
- 岡崎市の森林施策については、同市森林課の今泉氏より「岡崎市の森林環境譲与税を使った森林施策について」をテーマに話題提供をいただいた。同市は、令和2年度の活用実績として所有者から委託された森林について一部を民間事業体に再委託することや、人工林間伐養成講座をはじめとする4講座を開催したことを報告した。

<矢作川水系流域治水プロジェクト>

- 国土交通省が推進している「矢作川水系流域治水プロジェクト」について、事務局より紹介された。本プロジェクトは、事業を「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」「被害対象を減少させるための対策」「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」の3つの対策に分け、国・県・市町が一体となって流域治水を推進することとしている。



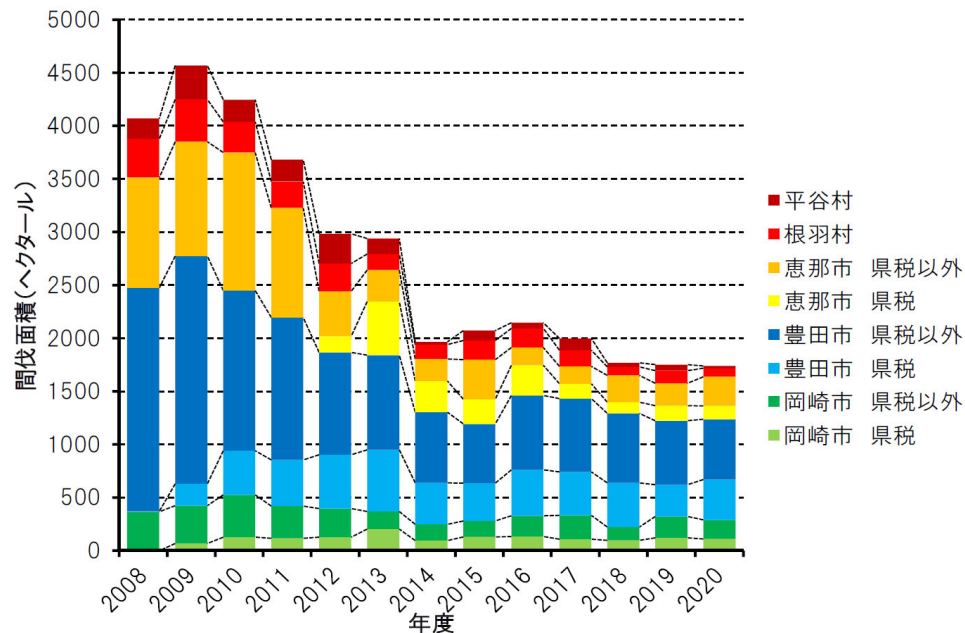
流域の自治体の森林施策の状況報告（豊田市の例）

山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

③ 森づくりガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜流域市村の間伐面積の経年変化＞

- 2009年をピークに、流域の市村の間伐面積は減少し、2018年以降横ばいとなっている。2020年の流域の間伐の状況は、以下となっていた。
 - ① 根羽村では、材価高騰のため、皆伐が増加している。
 - ② 恵那市では、搬出間伐がメインであるが、補助金額が減少している。
 - ③ 豊田市では、コロナの影響で材価が下がったため、切置き間伐に移行したが、現在は材価高騰のため、皆伐が増加している。
 - ④ 岡崎市では、コロナ対策に予算を割かれたり、水源基金も作業道造成に比重が置かれたため、間伐面積の減少につながった。



2008年以降の流域市村の間伐面積の推移

山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

④木づかいガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<「木づかいガイドライン」の作成>

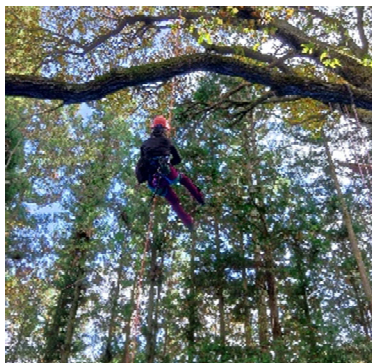
- 早生樹であるコウヨウザンの試験植栽に関する情報共有を行った。コウヨウザンは、早生樹で、1500本/haで植え付け、獣害対策をしながら森林資源の早期育成を図るものである。スギ・ヒノキの植栽密度が3000本/haであるため、間伐経費を抑えた低コスト施業につなげる。植栽当初（R2.12月）は活着率がほぼ100%で順調であったが、この冬にシカの食害を受けて、ほぼ全滅状態となっている。これをうけ、シカが嫌うカプサイシン(辛子)溶液を導入することで、再度コウヨウザンの植栽を検討している。



根羽村のコウヨウザンの植栽地遠景と苗

<木づかいと森林アクティブ系・癒し系プログラムによる市民創造型プロジェクトの実施>

- 山梨県の南都留森林組合では、森の学校の開催、様々な森づくりワークショッププログラムの開発、森の幼稚園との連携等、様々な木育活動を行っている。以前実施した当流域圏懇談会と神奈川県山北町との流域連携の結果として、現在、両組合が連携して、森林アクティブ系、癒し系プログラムを南都留森林組合が、木のアイテムを活用したプレイスメイキングを根羽村森林組合が担当することで、それぞれの両組合の強みを活かした魅力的な里山活動を行うこととなった。



◀山梨県の南都留森林組合との連携
森林アクティブ系と木のアイテム系の
プログラム交換

山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

④木づかいガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の製作とその理念と製作方法を普及>

- 根羽学園では、4年生の子ども達に「矢作川流域ものさし」を製作してもらい、併せて「私の流域物語」を作文してもらった。「矢作川流域ものさし」は誰にでも楽しく作れて、木の自然素材カラーが美しいことから子ども達にも好評であった。また、続けて作文してもらった「私の流域物語」も、ものさしに絡めて様々な思いが語られており、やはり、「流域ものさしと流域物語」の他者へのプレゼントは、子どもも大人にとっても大変魅力的で印象的な試みとなった。



流域ものさしの製作と私の流域物語のお手紙

<「森の民のこどもたち（NPO法人 矢作川源流の森ねば）の作成>

- 「木を育てる」「木で作る」「木とくらす」「木と共に生きる」をテーマとしたパンフレットを製作したことで、森の育成から木材の生産、暮らしの中での木の活用などが周知された。また、木を育てて、伐採しそれを製材機にかけて建築部材を生産し、家づくりまで結びつけている木づかいの流れが簡単に理解されるように努めた。
- 「森の幼稚園」という活動が世界で広がっており、日本でも同様の取組みが進められている。森の幼稚園的な活動により、田舎への移住者が増え、定住促進につながっているところがある。矢作川流域独自の森の幼稚園の構想を推進することで、将来の森の担い手づくりに結び付く可能性があることを共有した。



子ども達への木づかい推進（左：伊那市 高遠第二・第三保育園、右：根羽学園）



パンフレット「森の民のこどもたち」の抜粋

山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

④木づかいガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<改正公共建築物等木材利用促進法について>

- 木材の利用を促進する対象として、公共建築物から民間建築物を含めた建築物一般に拡大する法律の改正を周知した。参考事例として、木材を積極的に活用することにより山村の活性化に貢献していくことが明記されており、矢作川流域での活用が大いに期待できると考えられる。
- こうした法制度の改正の周知により、今後、学童施設や里山に矢作川流域材を活用した活動拠点施設及びトイレ等を設置して、里山等における木育活動の推進を図ることを周知した。



名古屋市内の児童施設 愛知県産材のスギ材による板倉構法の拠点施設

山部会の次年度の活動目標

来年度の活動目標

次の10年を見据えながら、山部会の在り方を模索するとともに、4つの活動テーマを軸として、情報共有と意見交換を行う。また、他部会との連携を通し、流域としての課題解決に貢献する。

テーマ別の活動目標

①流域圏担い手づくり事例集

- ・持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集IV」を刊行する。
- ・特に山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目して取材を行う。
- ・川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。
- ・事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。

山部会の次年度の活動目標

②山村ミーティング

- ・山村ミーティングの実現のためには、林業技術者に直接意見を伺うなど、懇談会との連携を強化する（担い手の創出）。
- ・一昨年までの矢作川感謝祭では、流域の森林組合員の参加が定着傾向にあった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大のため、今年度はイベント自体が中止となった。今後は、このイベントが林業関係者の交流の場として、どのような役割を果たすのか、開催を支援しながら再検討を行っていく。

③森づくりガイドライン

- ・森林経営管理法、森林環境譲与税などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
- ・水循環基本法に定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップする。

②山村ミーティングと③森づくりガイドラインの協働

- ・矢作川流域の森を守っているプロたちが、その仕事の意味や重要性を理解し、誇りをもって作業を行うための指針となり、同時に、矢作川流域の恵みで生きる河川管理者、沿岸漁業者、流域住民が、流域の森を守っているプロたちの作業の公益的な重要性を理解し、彼らをリスペクトし、応援するための指針となることを目的とした「矢作川流域 山づくりガイドブック」の作成に取り組む。

山部会の次年度の活動目標

④木づかいガイドライン

- ・矢作川流域内の各関係者が取り組まれている木づかい活動や推進テーマを「さあ～しよう」の形で提案していただくことにより情報を共有化し、流域内の身近な木を利用した木づかいが推進されるように「木づかいガイドライン」を作成する。
- ・矢作川の流れを絆として、個人の思い入れを込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「矢作川流域ものさし・私の流域物語」を有志で製作し、これを全国の各流域に配布することによって、全国の各流域において、その理念と製作方法を普及する。
- ・「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある矢作川流域圏懇談会の取り組みについて、全国の流域関係者に向けて発信する。
- ・「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所での「木づかいライブ スギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施や、個人の思い入れを尊重した木づかいによる市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施する。
- ・こうした取り組みを通して矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させ「木づかいによる場所の力づくり＝プレイスメイキング」によって、身近な生活空間を魅力的な地域空間に変革していく。
- ・こうしたプレイスメイキングに際し、地域住民や地域の子どもたちが一緒になって活動することにより、特に子どもたちに対して、地域資源と共に生きていく様々な原体験の場を提供していく。
- ・神奈川県山北町において開催された「大人の木育」の講師を務めた流域連携から、現在南都留森林組合との連携事業がスタートした。今後、道志村のキャンプ施設を対象とした森林づくりワーク及び木のアイテムによるプレイスメイキングを進めていく。
- ・学童保育、森の幼稚園、里山等で森づくりワークを進めていくにあたり、それらの活動拠点施設及びトイレが必要である。愛知県の学童施設に愛知県産材のスギ材が「板倉構法」として使われており、こうした事例を参考に矢作川流域材を活動拠点及びトイレ等の施設に活用していく。